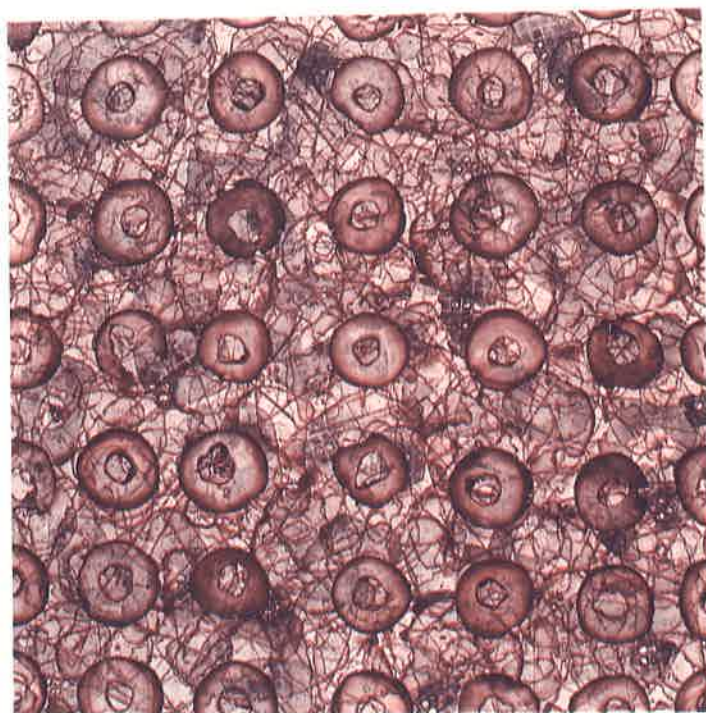


ITEM

文化学習情報誌
〔アイテム〕

Vol.2

平成7年度版



田中 二三子 energy

コラージュ 73×73 cm

特集 もうひとりの私

- ▶ 猪名野神社の「算額」をパソコンで解析
- ▶ 絵の魅力に引き寄せられてコツコツと
- ▶ 話を通じると語学はおもしろい
- ▶ 主婦3人の「生涯学習」泣き笑い物語

(講義録)

活断層が引き裂いた古代史

～コンピューターがつきとめた巨大古墳崩壊の痕跡～

(財)伊丹市文化振興財団

伊丹市立図書館南分館

描きつづける日

『わが生涯学習の断片』

絵を描くことを、私は勉強・仕事と言っている。勉強も仕事も歯をくいしばってしているのではなく、好きで描いているのだから、遊びで道楽だと言ってもいい。これが生涯学習というものではあるまいか。

子供の頃から絵の好きだった私は、美術教師をしながら絵を描く道を選んだ。

学校では、人間としての勉強や、絵の基礎的な学び方をおぼえた。

しかし卒業してからの私の成長期の大半は開戦・戦争・敗戦・戦後と教師をしながら絵を描くどころではなく、戦争に行かずにすんだだけでも幸運だと思う時代だった。町も学校も人も焼かれて、戦争は虚しく終わった。

現憲法が出来て、17年の教師生活を打ち切り、大阪に出て公務員をしながら、広島や大阪の「記念碑」をつないだベニヤに描き始めた。絵描き仲間も出来、若者たちと会を創って勉強発表を続けるのだが、残り時間が切にいとおしく、私は定年前の肩叩きを機に退職して、初めて念願の絵描き人生に移る。すでに59歳。



さそわれて幾つかの会にも入った。

その頃アトリエを伊丹に移して、ここで十数点の「エーゲ海の女達」(100号)を連作し、「日本の山河」も「伊丹の風景」も描いた。

今は徹夜で描くこともなく、サラリーマンの様に毎日この仕事場に通り、土日祭日は半休となまけて残業もせず、少しでも長く、描きたいものを描こうと思っている。去年は戦後50年、今年の秋は伊丹で50回目の個展だ。

1910年宮城県生まれ、東美卒、二元展総理大臣賞、紺綬褒章、市民文化賞など受賞。大阪府美術協会委員、伊丹美術協会名誉委員、伊丹市芸術家協会副代表幹事。

大泉米吉

ITEM VoL.2 文化学習情報紙 (アイテム) CONTENTS (目次)

特集 ひとり暮らしの私 生涯学習実践レポート

巻頭言
思い出は伊丹に始まる.....1
猪名野神社の「算額」をパソコンで解析.....2
絵の魅力に引き寄せられてコツコツと.....3
話が通じると語学はおもしろい.....4
主婦3人の「生涯学習」泣き笑い物語.....5
役者「井上 美穂」を育てた場所 アイホール.....6
アイホール事業紹介.....7
音が響きあう、人が響きあう 伊丹アイフォニックホール...8
伊丹アイフォニックホール事業紹介.....9
生涯学習の拠点館ラスタホール.....10
「活断層が引き裂いた古代史」.....12
毎日が楽しく、毎日が充実しています.....14
私と成人病とスポーツ (運動療法のすすめ).....15
舞台芸術の影武者「音響・照明・美術」.....16
自分でできる家屋補修のポイント.....17
財団法人 伊丹市文化振興財団の3施設紹介..... 巻末

表紙作品について

(作者 田中二三子さんのメッセージ)
偶然に作品が出来ることはありえない。偶然の中にひそむ必然性や、意図しないものがキャンパスに現れるおもしろさに魅せられ、描き続けてきた。このコラージュは、和紙に火をつけて、こがしながら、燃えつきる前に消し止めて、制作した作品。まさに、火炎がつくる瞬間の造形である。

ITEM VoL.2

巻頭言 思い出は伊丹に始まる

伊丹 三樹彦

伊丹で生れて、三木で育ったところから、ペンネームを伊丹三樹彦とした。生涯、有縁の二つの町の名を背負うての俳句人生だ。

伊丹は酒食の町、僕が両親と共に暮したのは湊町の裏長屋で、大家は「白雪」であった。家賃は驚く程安かった。が、外厠であり、井戸は共同であった。二階とは名のみの天井の低い物置然とした空間、それを改

装したのが、結婚したばかりの僕たちの新居だった。軒破れたる 正月のさんざ降り

階下は実父と継母が暮していたが、実父は遊び好きで、よく家を空けた。継母は気丈にも、それに耐えながら、芸伎稼業を続けていた。何とも惨目な貧乏時代であった。が、俳句の方は評判が良くて、当時の代表作として知られた。後年、長女の啓子が、僕の伝記を出版し、伊丹市芸術家協会の新人奨励賞を頂いた。書名も「軒破れたる」で口絵には両親や、僕の幼年期、青年期の肖像写真を多く用いている。啓子は今、「俳句研究」誌に「日野草城物語」を連載中だが、父の次は、その師草城という訳だろう。評伝では、大谷晃一を尊敬し、その指導言を得ながら精進している。

僕は終戦の年の十二月に宮前筋で伊丹文庫なる古書店を開いた。昔の呉服屋をその儘の姿で借りたから、格子戸があり、上り框があり、座敷の上に本棚を並べた。客には靴を脱いで貰った。僕は三和土の一隅に藤椅子を据えて店番をした。詩人の富田碎花、宝塚の演家白井鉄造らにひいきにして貰った。草城も一度だけ現われ、店頭句会の相手をされた。草城は名文家でもあって「昆陽池にて」という吟行記を残している。戦前から、昆陽は歌枕の地であったのだ。いま池畔にかいつぶりさびしくなればくりけり

の草城句碑が建っている。まことにふさわしい存在だ。新しくは、昆虫館が出来、池の鴨や白鳥に負けぬ人気を呼ぶ。蝶は色や匂いにも敏感で、特に女性性は髪や香水の加減もあって、好箇の標的となる。掲げた写真はその証である。

伊丹 三樹彦 (いたみ みきひこ)

俳人、写真家、「青玄」主宰、現代俳句協会副会長。

大正九年三月五日伊丹本町生まれ。本名は岩田秀雄。尼崎市民芸術賞、兵庫県文化賞、大阪市民文化功労賞など受賞。昭和十六年「旗艦」の同人、二十年末に伊丹に「伊丹文庫」を開設。楠本憲吉、伊丹公子らと同人誌「まるめる」編集。昭和二十四年に「青玄」創刊に参加し、後に主宰。句集に「仏恋」「人中」「神戸長崎歐羅巴」「夢見沙羅」「樹冠」など。

また写真を大阪光芸クラブで岩宮武二に学び、仁科展、国際写真サロン展などに入選を重ねる。俳句と写真を組み合わせた「写俳」を提唱し、写俳集「隣人有彩」がある。日本文芸家協会に所属。妻は伊丹公子。



猪名野神社の「算額」をパソコンで解析

— 日本独自の数学(和算)の拠点伊丹 —

もうひとりのわたし



藤井康生さん

兵庫県立西宮南高等学校教諭(数学担当)
江戸時代の数学(和算)の問題に関する和算家の解法に興味を持ち、パソコン上の数式処理システムによって研究している。



猪名野神社

仕事をもち、多忙な毎日の中で、常に「学ぶ」姿勢を忘れない。そんな人たちのひとは輝いているようです。
自分の知的好奇心を満たし、教養を深めながら、自分の人生の幅を広げている皆さんの実践例をご紹介します



著作物

市内宮ノ前3丁目にある猪名野神社の本殿には、文政9年(一八二六年)と嘉永6年(一八五三年)に奉納された「算額」が大切に保存されている。
算額とは、江戸時代に発達した日本独自の数学体系「和算」でいう幾何学や微積分の難問を絵馬にしたもので、その多くは寺社に奉納され、解答や問題そのものを同好の士に挑戦するため、全国で盛んに行なわれた。

藤井さんは、高校で数学を教えるかたわら、和算の解法に興味を持ち、その解法をパソコンで研究を続けている。藤井さんが、和算に興味を持ったきっかけは、今から二〇年前、教師になってはじめて受けた教科研修で、和算を数学教材にとり上げた授業を見てからである。やがて、近畿数学史学会に入会。先人の研究に触発されながら、和算の魅力に引き込まれていった。
図書館で「最上流・算法天生法指南」という江戸時代に書かれた和算の入門書と出会い、これを参考書が

わりに、和算の研究に没頭したとのこと。江戸時代には和算を職業とした和算家が全国を行脚して、測量・両替・金利や暦の計算を行ったり、寺小屋などで教授したりしていたとのこと。当時、使用された計算の道具(算盤や算木など)などが、各地の寺社や旧家に保存され現在に伝わっているという。

藤井さんは休日を利用して、猪名野神社をはじめ、近畿各地に和算の足跡を求め、研究を続けている。まとまった時間を研究に費やすことは出来ないが、家族の理解に助けられながら、研究の集約を先ほど出版することにこぎつけたとのこと。和算は明治維新後、西洋数学の輸入によって消えてゆくが、地元根づき、人々の暮らしに密着した和算を、広く現代社会に伝えていくことが夢だという。

嘉永六癸丑正月敷旦

今有如四三角内容乙丙三円其上較甲円其四角交三角尖只云三角面若干問得各円徑幾何術為何
答曰如左術
術曰置八箇為甲法加一十箇為乙法加六箇為丙法置只云環三段開平方三之為通乘以其法除之得各円徑合問
山路入道相參證誌

今有如四内面天円其文詳答果円不知共箇數只云外円徑若干天円徑若干地円徑若干

絵の魅力に引き寄せられてコツコツと

— 来年は個展を計画中 —

もうひとりのわたし



宮崎敦子さん

自分のために自由に使える時間ももてるようになり、子どもの時から好きだった絵に取り組み、平成7年度伊丹市展にて市長賞受賞。



作品「歲月」 50号 1995年春に製作

子育てを終え、心の中で何かをしたいという気持ちが大きくなり、まず俳画と出逢い4年前から墨彩画を習いはじめた。
月一回宝塚市の先生のところへ通い、日々家事の合間をぬって細切れの時間を利用して、創作活動に没頭している。
墨彩画は顔彩という顔料を水で溶き、画箋紙という紙に描く。
「この紙は水分を余計に吸い取り、少しでも油断すると大きにじんでしまい、よく失敗ばかりしていた。」とふり返る。

日本画というイメージで宮崎さんの絵を見ると驚かされてしまう。墨彩画のタッチは日本画(水墨画)の想像をはるかに超え、油絵の質感に近く、光と影・建造物の立体感など迫力が感じられる絵である。
絵のモチーフを見つけるため、春と秋の年二回旅行

に出かけている。スケッチブック・パステル・カメラを持ち、土曜、苔のある素朴な町並みを、探し歩いている。

墨彩画の魅力は、何であるのかという問いかけに宮崎さんは、「派手でなく素朴な感じと、侘び寂びがあるところ」です。また、描きたいものが頭に浮かんでも、実在するモチーフを探すときが「一苦労」です。下絵を描き終えると次は色づけ。このときが一番楽しいんです。



墨彩画は顔彩という顔料を水で溶き、画箋紙という紙に描いていく。

深みのある微妙な色合いは、ある程度の年齢にならないと描き出せない。水墨画の要素がとけ込んだ「墨彩画」の美しさにひかれて……

と話してくれた。

思うように上手に描けず、筆がとまることもあるが、先生のアドバイスや教室の仲間との語り合いによって励まされ、ひたむきに描いている。

現在は風景画を主に描いているが、将来は人物画にも挑戦し、個展を開くのが夢だとにこやかに話ってくれた。

自宅の一室をアトリエがわりに使っているものの、画材だけでなく美術誌や画集などがおかれ、時間があれば手にとるとのこと。

墨彩画だけが持つ質感あふれる構図と筆勢に魅せられる取材だった。

話しが通じると語学はおもしろい

もうひとりのわたし

桑原 勲さん

大手電気メーカーに勤務のち、英会話の勉強に、情熱を燃やしている。奥さまも影響を受け、英会話を勉強中。

英語との出会いは、今から四〇年前にさかのぼる。工場の昼休みに、大きな機械の陰で英会話を勉強していた先輩二人の姿を見たのがきっかけだった。それまでは、英会話を勉強することになるとは思っていなかった。今さら語学をはじめたところで、あまり役に立たないだろうと思っていたこと。

やがて、日本経済の発展とともに、海外に工場ができるようになり、さかんに外国の技術者の行き来がふえて、英語を話せるようになったらと思ひ、個人教室や英会話学校に通うようになった。でも、授業は英語しか話さないため、講師が「テキストを出して」と言われても分からず、戸惑ったり、先生の発音に耳が聞いていけず、落ち込んだり、自信をなくしたり、結局のところ長続きしなかった。でも、英語はやりたいたいという気持ちだけはあった。

そんなある日、会社の友達にさそわれて、公民館の

英会話講座に顔を出すようになった。ちょうど、定年退職になったことも重なり、時間的な余裕もできたので、腰をすえて英会話の勉強を続けた時期があった。そして、どうにか片言の英語が話せるようになったのである。そんなある日、ハワイ旅行に出かけたときのことである。たまたま、ワイキキの街角で自分からアメリカ人に話しかける機会が生まれ、思い切って英語でしゃべってみたところ、驚いたことに自分の英語が通じたのである。本当にうれしくなり「これだったらもっと本格的に勉強しよう。」と覚悟を決めたと言う。



英会話を始めた動機を熱く語る桑原さん

語学は、他の学問と違っていつでもどこでも、誰にでも、毎日少しずつでも出来るもの。やがて、海外旅行や仕事で使える、洋画の字幕表現のうまさにつづく

勉強したいときが適齢期なのだ。語学はさまざまな世界へ通じるはじめての扉。単語を忘れることを恐れず、小さな一歩、小さな進歩に喜びを感じて……



英会話サークルにて



オーストラリア大陸横断鉄道の列車前で奥さんと

ようになる。でもそうした実用もさることながら、一番の楽しみは、英語が通じてお互いの気持ちに分かり合えるときだ。

ふりかえてみると、自分では忙しくしていたつもりでも、ずいぶん「捨てていた時間」があったのだと反省しているという。

「きのうは英単語を3つ覚えたが、きょうになると2つしか頭に残っていない。」

そんな毎日が続き、いらだつこともあった。でも、それを気にしてはきりが無いと思うようになった。小さな一歩、小さな進歩に喜びを感じて、忘れることを恐れず、こりもせず、コツコツやることだそう。

勉強はしたいときこそが適齢期なのである。人の一生は有限だ。だからこそ、その中で「何か」をしたいただ生きるだけでなく、より積極的に生きたい。人が学ぶ目的はそこにあるような気がする。

もうひとりのわたし

主婦仲間3人で保育試験にも挑戦して 保育ルームを開きました

「私たちの「生涯学習」泣き笑い物語」

松浦一枝さん、長澤雅江さん、荒東孝子さん

何か始めたい女性にとって、子どもを連れて動きまわるのは大変なこと。必要なときに、困ったときに、子どもを安心して預けられる場所があったら。そしてそこで自分たちが働いたら。そんな夢を、実現した女性たちがいる。多忙な毎日の中でも、常に「学ぶ」姿勢を忘れなかったことが、その近道だったようだ。

遊ぶ親子の姿も見受けられなくなった。育児ノイローゼや途方にくれた私たちの経験を、これから親になる若い人たちに役立ててもらおうと。彼女たちが、保育ルームのオープンを目指した背景には、同世代の女性たち共通の悩みと不安があったようだ。

「でも、保育ルームをただやりたいといっても、勉強もしていない。そこで、ひとつ腹をくくって勉強し直してみようと思いました。家事や仕事の合間に、子育て講座のはしごをしたり、図書館で本を借りたり、そして保育資格の受験にも挑戦しました。」

もちろん、夫や家族の理解なくして、ここまでにはたどり着けなかった。

これまでは目標をもたず、ただ家事に追われ、毎日の生活に疲れていた自分自身は本当に何をやりたいのか、そのために何が必要なのかを見失いかけていたこと。保育ルームの夢をあきらめて、今の生活をこのまま続けていくと、きっと将来で「今ごろはこうなっていたんじゃないか？」と未練のこり、逆に「保育ルームをしていたらダメになっていた。」と自分に言いわけしていたはずだと振り返る。



写真は「パネルシアター」の練習にはげむ松浦さん、長澤さん、荒東さん（左から）

「以前から、保育ルームのことはずっと考えていたんです。学校で子育てのための授業はなかったし、核家族で相談する家族も少ないし、少子化で近所の公園で



ら思うと大きな一歩を踏み出せたようだ。これからは専業主婦と働いている女性の接点になったり、地域の子育てネットワークカーになりたいたい。

一時保育、子どもクラブ、保育付きお母さん教室などの企画に多忙で充実した毎日をおくっている。今、彼女たちは米国で実効をあげている「こどもいじめ防止プログラム」C.A.P.P.の資格取得に挑戦している。

自分が本当にやりたいことを見つけ、実践した今、とても元気でハッピーだと語る3人。余計な迷いやジレンマを脱皮した彼女たちの表情は、いっそう輝きを増していた。



役者 “井上美穂” を育てた場所

家であり学校であったアイホール



井上美穂さん

一九九〇年アイホール演劇学校に入学。
一九九三年劇団プロジェクト・ナビに入る。
現在、名古屋を中心に全国で活躍中。

だったが、北村想の作品、そして劇団のイロに不思議な魅力を感じていたのだ。そして一九九三年無事合格通知を手に名古屋に移ることとなる。



1992年 アイホール演劇学校 「トイレはこちら」

「こんなに女らしい私が男役？」

一九九〇年伊丹のアイホール演劇学校に入る。以後三年間、三度の舞台を男役で貫き通す（なんて男らしい）。役者志望には女が多いのよ、それで納得…。

二年目に上演した二人芝居。何の知識もなく意気込みだけの私が、初めて芝居の面白さを知り、稽古の間や苦しさを楽しむことが出来た舞台。のびのびやりたいように演っていたことが、私のこの性格からするとよかったのではないだろうか。今でもこの経験は大きな力になっている。

私なりの解釈もそろそろ限界かしら、それが三年目だった。主役をやらせてもらったが、女の子を目の前に「お前が好きなんだ！」なんて台詞、はずかしくて、はずかしくて。私の中に芝居をどう入れるのか、大きな宿題を抱えたまま卒業を迎える。

卒業後、プロジェクト・ナビの研究生オーディションを受ける。何故ナビなのか？周りは驚いていたよう



1995年 劇団プロジェクト・ナビ 「戯曲・怪人二十面相★伝」

「冷たいナア」。標準語が飛び交うだけで（実は名古屋弁だった）そう感じる毎日だった。途方に暮れる：である。そんなこんなで劇団員に昇格し、一九九五年初舞台『戯曲・怪人二十面相★伝』。どれどれアタシの役は：青年、荘一！？
この年4本の作品に出演させてもらった。東京公演

は旅行気分（ダメかな）伊丹公演は実家に帰っておこづかい（ダメ）九州公演にはおいしいものは何かチェック（ダメダメ）そんなことを楽しんでいる私も、一本ずつ自分なりに消化していることに気づく。

そしてその間には、阪神大震災。実家が神戸の私も、名古屋の地で息もできない思いでニュースを見、ラジオを聞き、電話を掛け続け、やっと聞こえた母の声に涙した。神戸という街を愛している事も改めて痛感した。被害を受けたアイホールで又、芝居ができることがどれだけ嬉しいか…うまい言葉が見つからない。大きな宿題を抱えたまま、この先も私は、走っていかず、いや、やっぱり歩いていこうかな…。そしてこれからも、私の仕事は「女らしさ」の追求かしら、オホホホ…失礼しました。

伊丹発全国へ

小劇場演劇のメッカアイホール

演劇を中心に多彩なイベントが開かれているアイホール。昭和63年にオープンして以来、演劇界では「伊丹にアイホールあり。」で知られるようになった。

1階のイベントホールでは、演劇、ダンスのほか、音楽会、映画、講演会などにも利用されている。2階と3階にはカルチャールームがあり、演劇学校などが開かれている。

自主事業を紹介すると、まず「アイホールプロデュース公演」がある。既存の劇団の枠を越えて、原作や演出家を選び出し、出演者を決めていく。アイホールでしか出来ないオリジナル事業の一つである。



また、アイホール自主企画公演をはじめ、関西の若手劇団を中心にした提携公演などがあり、市内はもちろん、京都、大阪、奈良などの遠方からの観客も多い。演劇以外にも、ダンスワークショップ、フラメンコ教室などが開かれている。3月には、伊丹市内の中学高校6校の演劇部がアイホールに集い、それぞれ舞台発表や交流会、またプロの音響、照明装置スタッフの指導のもと、じかに体験学習する「演劇フェスティバル」が開かれる。感動の舞台芸術を創造し、文化を発信し続ける拠点としてますます注目を集めそうだ。



平田オリザ演劇ワークショップ



ランニングシアターダッシュ



音が響きあう、人が響きあう

より美しく、より楽しくをめざす
伊丹シティフィルハーモニー



指揮者 加藤完二さん

一九五七年 京都生まれ。一九八二年大阪音楽大学器楽科弦楽専攻卒業。
一九九〇年 伊丹シティフィルハーモニー初代常任指揮者に就任。朝比奈隆、手塚幸紀、小泉和裕、小松一彦のもとで副指揮者として研鑽を積む。現在大阪音楽大学非常勤講師、伊丹シティフィルハーモニー常任指揮者、エウフォニカフィルハーモニー常任指揮者。



市民により良質の音楽を提供するため、また伊丹の音楽文化と都市イメージの向上を図ることを目的として六年前に結成された。
当初五十〜六十人だった団員も現在は八十人に増え、平均年齢三十歳代と比較的若い構成になっている。

音楽を聴くだけでは物足りない。何か自分も演奏してみたい。伊丹シティフィルハーモニーも、そんな人々が集うアマチュアオーケストラのひとつだ。
アイフォニックホールの練習場のドアを開けると、さまざまな楽器の音が耳に飛び込んでくる。タクトが振り上げられると、一瞬の静寂につつまれる。タクトが二氏の指導のもと、少しずつ曲が形になっていく。表情は真剣そのものといっても、演奏の合間に笑みもこぼれ、和やかな空気が流れる。

彼らの主な活動は、伊丹市民オペラの演奏、子どもを対象としたファミリーコンサート・定期演奏会・大人向けの名曲コンサートである。その他市役所ロビーや荒牧バラ公園でミニコンサートを開いたり、最近ではその実力をかわれ、他市での出張コンサートもおこなっている。

「身近なオーケストラでこんなに素晴らしい演奏を聴くことができてよかった。」という声があちこちからあがり、加藤氏は「演奏会でみんなが感動するのは生の音だけではない。一生懸命演奏している姿だと思う。」と話している。

ここでは音が美しく響きあひ、人が音楽を通して触れ合っている。



ユニークな企画で音楽文化の向上に 伊丹アイフォニックホール

伊丹市の花「ツツジ」をイメージした外觀。音楽専用ホールとして平成三年にオープンした。自主事業には、世界の音楽をステージからとどける「地球音楽シリーズ」がある。世界の諸民族が、それぞれの時代に発展させたお国自慢の音楽を紹介している。

これと平行して、アイフォニック民族文化サロン「話題の地球儀」が開かれている。世界各地の風俗、芸術、衣食住などの諸民族の現代的課題を取り上げるシリーズの文化講座である。先に紹介した地球音楽シリーズ公演と連動して、音楽をより深く学ぶことができる。

また、伊丹ゆかりの音楽家演奏会やロビーコンサートなどが開かれている。こうした自主事業のほかに、伊丹シティフィルハーモニー、市民オペラ、伊丹市吹奏楽団、伊丹太鼓、伊丹市少年少女合唱団、伊丹混成合唱団の定期的な練習会場としても活用されている。すべての市民に、音楽のある暮らしを提供しながら、世界の音楽文化と交信をし続けるホールでもある。その成果に期待を寄せたい。

「アイフォニック友の会」会員募集！
あなたの観たい、聴きたい、楽しみたいに応える
年会費 一五〇〇円（入会日より一年間）



地球音楽シリーズ
音楽の中の小鳥たち



地球音楽シリーズ 淡路人形



地球音楽シリーズ アンデス

生涯学習の拠点館

伊丹市立生涯学習センター

ラスタホール

地域の中にあつて、人々の文化学習活動を支え、創造的に健康と福祉を提供する複合施設として、ラスタホールの責務は大きい。

阪急稲野駅から西方向に歩いて約一分。御願塚古墳沿いの道を歩き、二つ目の信号を右に曲がると、見上げるように4階建のラスタホール（伊丹市



最新のパソコンソフト「ウインドウズ95」を使った講座（2階マイコン室）



デイサービスセンターの送迎用車イスリフト付きバスが発車する

立生涯学習センター）がある。文化、学習、健康、福祉の機能が複合した施設で、子どもから高齢者までの世代をこえたふれあいがあり、ひろがっている。一階にはエントランスホール、図書館南分館、パーラーラスタ、事務所、学習室がある。二階はマイコン室、音楽練習室、視聴覚室、会議室と三〇〇人収容可能な多目的ホールがある。三階には、講座室、和室、児童室に調理室があり、教養講座や実技講座などが

立生涯学習センター）がある。文化、学習、健康、福祉の機能が複合した施設で、子どもから高齢者までの世代をこえたふれあいがあり、ひろがっている。一階にはエントランスホール、図書館南分館、パーラーラスタ、事務所、学習室がある。二階はマイコン室、音楽練習室、視聴覚室、会議室と三〇〇人収容可能な多目的ホールがある。三階には、講座室、和室、児童室に調理室があり、教養講座や実技講座などが



1階エントランスホールでいつもは作品展示会が開かれるが、昨夏はハワイアンコンサートを実施した。



4階フィットネスのスタッフたちいつも笑顔が絶えない

さんで一日中にぎわっている。ところでこの「ラスタ」というネーミングは市民からの公募によって選ばれたもので「ライフ」と「スタディ」を組合わせ、「輝き」という意味がある。市民一人ひとりが集い、学び、健康で感動的な毎日を送れるようにとの願いがこめられている。



ステージと客席が一体となり盛りあがった市民のど自慢大会。仮設住宅に住む人々の熱唱もあった。



図書館 南分館

ラスタホールでは、市民によって育まれた文化活動を支援したり、充実した講座やすぐれた芸術鑑賞事業を企画・実施している。伊丹でくろひろげられた歴史を探访する「わが街歴史探検隊」「日本文化史入門」「自分を見つめる心理学」「最新宇宙論概説」「はじめての源氏物語」「夏休み子



アニメ主題歌コンサートで子供たちもステージに

どもスポーツ教室」など、幅広い年齢層に満足していただけるようなプログラムづくりを力点を置いている。とりわけ「はじめての源氏物語」の講座では、原文を読み進めながら、物語ゆかりの地を訪ねる現地学習をもち込み、葵祭り、京都御所、高山寺、野宮神社などに足をのびた。

一方、二階の多目的ホールでは、アーベントコンサート、アニメ主題歌コンサート、人形劇、囲碁大会、浪曲名人競演会、演劇、映画、落語、文化講演会など多彩な事業が開かれている。

さて、一階のエレベーターホール横には、生涯学習情報コーナーがあつて、京阪神の各地で開かれるさまざまなイ



ピーターラビットの作者の生涯を語る講座

ベント情報、講演会、講座、美術展、舞台芸術などのリーフレットが分野別に整理されている。来館された市民の皆さんが手に取りやすいように、トレーに入っている。同じフロアの図書館南分館には、約六万冊の蔵書と約五百本のビデオライブラリーがおかれている。また、三階には自慢の調理室がある。ヨーロッパ調の家具式冷蔵庫、大型レンジ付調理台、換気扇は銅製のフードカバーがついていて、シックな雰囲気をかもしだしている。ここでは、土井勝お料理生活講座をはじめ、世界の温ったか鍋料理教室や男性による「アイデア料理同好会」、それに独居老人のための給食サービスの拠点として、ボランティアによる弁当づくりも行われている。



小学生のためのわくわくDoing料理実習



1階エントランスホールでの新春初釜他に市民作品展などの展示会場にもなる

阪神・淡路大震災を心に刻んで…

『活断層が引き裂いた古代史』

ラスタホールの講義ノートから



おさわかずまさ
小澤一雅さん 大阪電気通信大学教授
一九四二年生まれ。大阪大学大学院修了、工学博士
教授(情報工学部長)、英国シエフィールド大学研
究員、国立民族学博物館共同研究員、人工知能学会
評議員、国際会議CAA運営委員、文部省学術審議
会専門委員等を歴任。



ラスタホールの近くにある
御願塚古墳(帆立式古墳)

私たちの暮らしに甚大な被害をもたらした、多くの尊い生命と財産を奪い去った大震災から一年が過ぎました。震源地は淡路島の北東部にあり野島断層。大地の揺れがおさまってみると、そこには立ち向かわなければならぬ出来事がある。山ほど積み重なっていました。

さて、活断層型地震には、周期性があり、古文書などに記録が残されていますが、古代人が築造した古墳を調べると、古代から現代の地震の痕跡が刻まれていることがわかってきました。

古墳の形態を、コンピューターを使って研究する学問が注目されている。古墳を分析していくと、過去の地震や活断層の激しい隆起で墳丘に二メートル近くの段差ができてきたり、部分崩落を起こしていることが明らかになってきたからである。

古墳に刻まれた地震の痕跡から、活断層の活動周期

の手がかりを探る試みははじまっている。

「古墳形態学」の第一人者で知られている大阪電気通信大学の小澤一雅さんが「活断層が引き裂いた古代史」と題して、その研究成果を語る講演会が、去る十二月七日、伊丹市立生涯学習センターで開かれた。

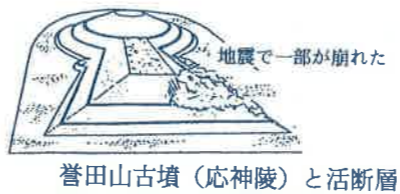
小澤先生の専門は、情報工学で、コンピューターサイエンスの科学者。大学で古代史を講義しているわけではない。古墳の実測図をもとにして、古墳の直径や全長、高さなどの数値を図形データにして、コンピューターに入力。研究室のコンピューターには、国内の前方後円墳三三〇八基の墳形データが登録されている。膨大な古墳の形態分析の研究が進むなかで、国内に存在する前方後円墳の各部の寸法や比率が、縮尺を調整する条件はあるものの、気持ちが悪くなるほど一致することがわかってきた。また、墳形が時代とともに微妙に変遷していく事実などが明らかになったとのこと。

このように断層によってできた地形を整形して断層崖上に古墳を築造した例として、奈良県の佐紀盾列古墳群と佐紀断層があり、神功陵・成務陵・称徳陵などがある。承和十年(八四三年)三月一八日記述の『続日本後紀』には、「山陵鳴ルコト二度、ソノ声、雷ノ如シ」とある。また、明応三年(一四九四年)五月七日にも奈良北部を中心とする大地震の発生を、多くの古文書が伝えている。これによる古墳の崩落など地震

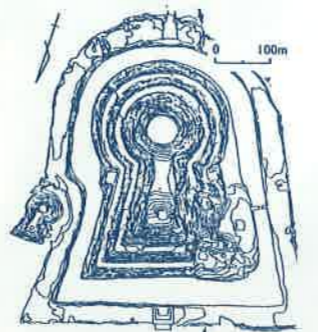
これらのことから、古墳築造に関わった測量をはじめとする高度で専門的な知識をもった土木技術者集団の存在が浮かび上がる。

前方後円墳という古代史を象徴する巨大モニュメントの研究は、考古学や歴史学の領域であるが、極めて精緻な企画性をもって作られた墳丘は、明らかに高度で専門的な技術の所産であり、工学的な視点から取り組むことで、古代とのコミュニケーションがはかれると力説されていた。そして、これらの古墳と活断層の関わりについて、講義は核心へとせまっていた。

古墳を築造するとき問題となるのが、立地条件である。これまでの研究をまとめると、自然地形の利用と、平地に盛土による方法が明らかになっている。まったくの平地に盛土で築造するには、莫大な人的労働力や財源などを必要とした。一方、自然地形の利用は、丘陵の整形による古墳築造方式(図A)がとられた。この方式は丘尾切断方式と呼ばれ、半円筒形の地形を



地震で一部が崩れた
誉田山古墳(応神陵)と活断層

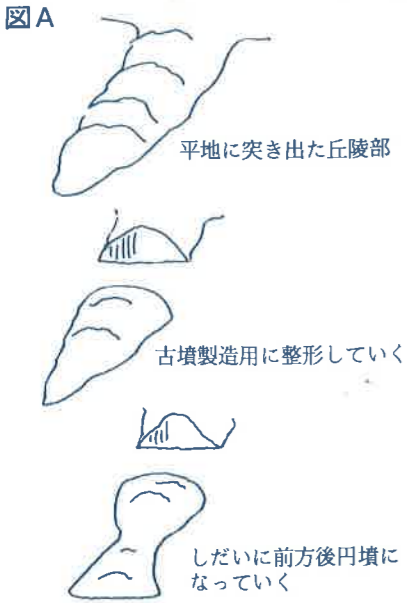


(等高線の間隔は1mで矢印の位置を活断層が通る)。

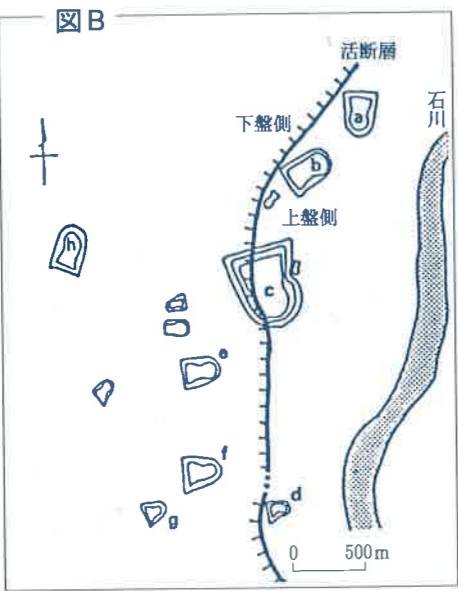
利用したもので桜井茶臼山古墳がある。

こうした古墳に整形可能な半円筒形の地形の隆起は、おおむね断層運動によって、形作られることが多く、通産省工業技術院地質調査研究官の寒川旭さんも同じ見解を持っているとのこと。大阪府にある古市古墳群は、誉田断層に添って、北から、允恭陵、仲津姫陵、応神陵、安閑陵といった前方後円墳が築造されている。つまり、誉田断層によって生じた半円筒形の地形を利用して、後に古墳が築造されたとの見解が多く寄せられている。(図B)

なかでも応神陵は、誉田断層をまたいで築造されている。活断層が激しく動いたとき、地形はもろろん、地上建造物も変形を被るはずである。これまでに応神陵前方部(西側)の崩壊部分について、いくつかの解釈や研究がなされたが、どうやら直下型の誉田断層地震とみてよい。このことは、古文書にも次のように記録されている。永正七年(一五一〇年)九月二十一日、摂津・河内一帯に大地震が発生した。この地震で藤井寺の七堂伽藍が倒壊し、四天王寺の石鳥居が全壊する



図A



古市古墳群と活断層

の痕跡とみられる変形が観察されている。

ところで、コンピューターで古墳の形態研究を進めていくと、古墳の崩壊状況から逆に計算して、崩壊当時の地震規模を解析したり、地震によって古墳がどう崩壊するかをシミュレーションできるようにしてきた。これによって、研究の幅がさらに広がっている。

阪神間の北部を西から東へ延びる有馬高槻構造線



継体天皇陵古墳
けいたいてんの
うりやうこふん

大阪府茨木市太田3丁目にある前方後円墳
活断層型地震でネジ曲がって
左右対称でなくなったようだ。

※なお、詳しくは小澤先生のご著書『前方後円墳の数理』雄山閣出版をお読みください。
※建設省国土地理院が、首都圏と政令指定都市周辺の活断層図の発行を決めた。活断層の位置や専門的データを盛り込んだ地図で、今年五月にも発刊される見込み。

毎日が楽しく 毎日が充実しています。

ラスタホール四階（フィットネスラスタ）の専任スタッフたち

ウェルネスとは英語の Wellness のこと、Wellbeing、幸福で繁栄している状態という意から来ている言葉だ。積極的に創造的に、健康を維持し、発展させようという意味である。一九六〇年代の初めにアメリカで提唱され、日本で普及されたのは七〇年代からである。

ラスタホール四階では、このウェルネスの理論にそったサービスパログラムが用意されている。お客様一人ひとりにあった、きめ細かいアドバイスをする専門ス



エアロビクススタジオでリズムカルなステップをふむ大井さん



温水プールでアクアマラソンを指導する前田さん

「こんにちは！」と明るく元気な声。こぼれるような笑顔で迎えてくれるラスタホール4階のフィットネスのスタッフたち。彼らと彼女たちの仕事にかける思いを聞いてみました。

「できたらなぁと思ってました。」と入社の際を振り返る。

前田さんも、この道二年のスタッフだが、学生時代は陸上短距離のスプリンターとして活躍していた。毎日の仕事について「お客様の年齢層も広いですね。上は七〇歳代の男女から二〇代のみなさんが楽しくやっています。なかには、ご夫婦でいらっしゃいます。」とのこと。

二人とも「お客様から、あなたのアドバイスのおかげで、目標にしていたことが出来たの。」と声をかけられるときが一番うれしいときだと思う。ちなみに、フィットネスラスタの利用者の体力測定結果は、全国平均を上回っている。彼女たちの努力が数字の上からも報われているようだ。

「この仕事は自分の身体、健康、精神もよくないと出来ませんから、人一倍気をつけていて、毎日のトレーニングは欠かせない。」と語ってくれた。

彼女らの他に、専門スタッフは合計十二名いて、きめ細かいアドバイスに取りくんている。

※フィットネスへの女性参加を促進するため、平成八年度に託児制度を導入する予定です。

私と成人病とスポーツ（運動療法）



フィットネスラスタ・マネージャー
たなか やすお
田中康雄さん
厚生省認定 健康運動指導士
労働省認定 ヘルスケアトレーナー
株式会社 ミズノウェルネス・マネージャー

こんにちは。平成四年五月のオープン以来、たくさんのお客様にフィットネスラスタをご利用いただき、心より感謝申し上げます。

私が運動による健康づくりを志したきっかけは、大学（福岡大学体育学部）の運動生理学の講義において、恩師である進藤宗洋先生の「高血圧患者の運動療法」の話でした。そこで運動は、体育であり、スポーツであるといった、すなわち体を鍛えるためのものだけでなく、病气（成人病）まで改善できることをはじめて知りました。

当大学の研究室は、持久力的な能力（最大酸素摂取量）の少ない運動不足の方は、成人病の因子（血圧、総コレステロールなど）において異常値を示す割合が多いという研究結果を発表しました。その後、厚生省が運動所要量（表1）というものを出し、その中に目標最大酸素摂取量を取り入れられています。すなわち、厚生省も持久的な能力を高める運動（二

表1 健康づくりのための運動所要量（厚生省：1989年）

年齢階級	20代	30代	40代	50代	60代
1週間の合計運動時間	180分	170分	160分	150分	140分
目標心拍数(拍/分)	130	125	120	115	110

最大酸素摂取量の維持目標値(単位: ml/体重/分)

年齢階級	20代	30代	40代	50代	60代
男性	41	40	39	38	37
女性	35	34	33	32	31



ラスタホール4階のフィットネスで気持ちいい汗を流す利用者のみなさん(写真と本文は関係ありません)

ラスタホール四階のフィットネスを利用されるお客様の中には、高血圧症の方もいらっしゃいますが、適切な運動プログラムによって、ずいぶん改善することが出来るようです。そのあたりをマネージャーの田中さんに聞いてみました。

コニコペーシスの運動：息が上がってしまようなきつい運動ではなく、仲間と話をしながら行えるような楽な運動（が成人病の改善に有効であることを認められ、積極的に奨励し始めたということです）

運動により、高血圧症の人に降圧効果が認められ、糖尿病では、インスリン抵抗性を改善し、高脂血症には善玉コレステロール(HDL)の増加など、成人病に対し明らか効果が見られることがわかっています。しかし、運動といってもただやみくもにやればよいという訳ではありません。個人個人に適した運動の種類、強度、頻度などを考えることが大切です。

フィットネスラスタにおいては、特に疾患をお持ちの方には、スポーツドクターである大森クリニック院長の大森英男先生の健康相談を受けていただき、処方に基づいた運動を安全に楽しく行っていたいだいていきます。また、管理栄養士による栄養相談も行います。運動・栄養・休養の健康づくりに欠かせない三要素すべての面から、皆様の健康づくりを総合的に真剣にお手伝いさせていただきます。ご来館を心よりお待ちしております。

「舞台芸術の影武者」

舞台の音響・照明・美術

舞台芸術の「影の主役」とも言うべき音響照明の専門家が、ステージにのぞむとき、どんな「こだわり」を持つのか。仕事場で原稿を書いてももらいました。



株式会社エスエフシー
加藤陽一朗さん

舞台音響家一九五二年十二月五日生まれ一九七七年より川西市文化会館、大阪府立労働センター（現エールホール）、万博ホールで舞台音響に携わる。一九八七年には、株式会社SFC(Sound Field Control)を設立。現在、その代表を務め、空間的な音の広がりをめざした音場制御の領域を追求。クラシックや環境音楽の音づくりに心血を注いでいる。

舞台芸術を考えたとき、表現とは何か、作品とは何か、などと考え出すと演出論や観客論にまで話が膨れ上がってしまう。また表現や作品の形態は時代背景と大きく関連しながら多種多様な形態を呈する。

本誌タイトルの「アイテム」という言葉を使っているとき、時代というアイテムには、ルネッサンス時代、バロック時代、近代という風にそれぞれカテゴリー化された表現様式が有り、主義主張（派）というアイテムにもロマン派や印象派等と多くのカテゴリーが存在する。観客の年齢というアイテムも、老人から子供にいたるまでいくつかにカ



表現手法の一例をあげると、ある芝居の中で悲しさを表現したいとする。そのとき役者が悲しい様の表情をしたり悲しげな声を発する。と同時に音響がバックグラウンドで悲しい曲を流す。美術が同様の空間を作り、照明効果で悲しみのどん底に場を引き込む。この時反



次の舞台照明や音響の設計にとりくむ加藤さん

このように多種多様な形態があるなかで、舞台の上演様式が定まったものとしてクラシックバレエのように演者と共に音響（音楽）・照明・美術が一体となって作り上げる総合芸術と言われるものがある。しかし現代を生きる我々にとって舞台芸術として音響・照明・美術がどう関わっていくかを考えた時、従来の総合芸術だけではなく、様式のいまだ定まっていなかったものを複合芸術としてとらえ、各々のパートのあり方を考えることが必要であろう。

最後にわが社の社名「エスエフシー」について一言つけ加えさせていただく。SFCとは「サウンド・フィールド・コントロール」の略で、多種多様な空間（劇場）で生まれ育ってきた音楽を上演するにあたり、各々の音楽に、よりふさわしい音場を創造しようという試みである。

対に役者があえて悲しみを見せない表現をしていても、音響・照明・美術でそのような環境を作り出すほうが、役者に内在する悲しみの深層を表現することが出来るかもしれない。この様に一つ一つの、パートがどう働きかけるかによって多くの表現手法が生まれる。物理的に閉ざされた舞台空間での表現や、経済性など多くの制約の中、《作品作り至上論》的発想に陥ることなく、自分にとって今、出来ることは何かを常々考えながら、「美」を感じることで感性を磨く必要がある。それとともにすべての物を広く見聞きし、その中で一つだけ深く物事を掘り下げることのできる専門家が、「複合芸術」を創造していくことができるのかもしれない。

『DIYとは何か』
自分でできるDIYのポイント』

震災復興に頑張るみなさんにメッセージがとどきました。家屋補修についてのアドバイスなどです。

日本DIYアドバイザー会
関西支部事務局長

通商産業大臣認定DIYアドバイザー
片岡規男さん

DIYとは英語で Do it yourself で直訳すると『あなた自身でやちなさい』という意味。今では『住まいと暮らしをよりよいものにするため自らの手で快適な生活空間を創造すること』をいいます。イギリスで一九四五年第二次大戦後の復興を自らの手でやろうと始まりました。日本は一九七七（昭和五二）年日本DIY協会が設立。十一月には第一回日本DIYショウが東京で開催。DIYが一般に啓蒙され、ホームセンターの店舗と共に急速に広まりました。

私たちDIYアドバイザーが震災の後DIY相談を阪神間の何カ所かで行いました。業者に依頼しただけではなかなか来てくれない、法外な見積りに驚いた。何とか自分でできないものかといった相談が多くありました。

家屋補修

家屋は新築された後は何もなくても年々傷んでいきます。しかし補修をすることで寿命を延ばせます。特に普通でも傷みやすいのは風呂場、台所など水まわりが中心です。

震災の相談が多かったのは壁のひび割れ。小さなものはパテで埋めます。タイルなども割れた部分を取り除きセメントで下地処理をして張ります。素人では仕上げが無理だと思いがちですが、トイレなど狭い所でテストして自信をつけるのも良いでしょう。壁紙の張り替えもDIYで簡単に張れる新しいタイプもあります。壁紙は重りなどを下げて垂直を確かめてから上から下に張ります。中に気泡が残らないように刷毛で中から外に向かって空気を出して下さい。

ペンキの塗り替えは風呂場などカビのあるところはカビ取りをローラー刷毛やコテ刷毛などで塗ります。刷毛にたれ落ちるほど塗料をつけしないで下さい。襖の張り替えは簡単に張れるアイロンで張る襖紙も便利。障子紙もあります。

業者に頼めばそこそこのお値段。しかしDIYでは材料費十少の経費で安く出来るのと自分の気の済むままにできることが最大のメリットです。誰でも初めは素人、少しだけ経験を積むと自信とやる気ができて

モルタル壁の補修法の実習風景
(ラスタホールにて)



屋根瓦の補修も学ぶ

ラスをはった壁に、モルタルをぬりつける

地域の文化振興の担い手として奮闘を続けるアイホールとアイフォニックホール。そして市民の生涯学習の拠点としてのラストホールの個性あふれる横顔を紹介します。



AI・HALL

アイホール (伊丹市立演劇ホール)

JR伊丹駅西出口から歩いて約1分。オープンしてから7年目を迎える一方で、関西の小劇場演劇のメッカとして不動の地位を占めるようになって来た。1階のイベントホールは床が35に分割でき、それぞれが上下に可動する仕組みになっている。演出によって、自由に舞台や客席が組み立てられるわけだ。演劇はもちろん、ダンス、映画、講演会などにも利用されている。2階と3階にはカルチャールームがあり、演劇学校等がここで開催されている(有料)。

開館時間 9:00～22:00
 所在地 伊丹市伊丹2丁目4番1号
 電話/FAX TEL 0727-82-2000 / FAX 0727-82-8880
 休館日 毎週火曜日と年末年始(12/29～1/3)
 交通アクセス JR伊丹駅(西出口)から歩いて約1分



AIPHONIC

伊丹 アイフォニックホール

アイフォニックホール (伊丹市立音楽ホール)

市制50周年に、市の花「ツツジ」をイメージして建設された音楽専用ホールで、市民の音楽活動の場として演奏会や発表会などに利用されている。メインホールは音響効果にすぐれ、残響が約2秒あり、クラシック音楽向きの構造。小ホール(2室)は、ミニコンサートや講習会に向いており、個人練習のできるレッスン室(3室)がある(有料)。

開館時間 9:00～22:00
 所在地 伊丹市宮ノ前1丁目3番30号
 電話/FAX TEL 0727-80-2110 / FAX 0727-80-2120
 休館日 毎週水曜日(水曜が祝日のときは翌日) 年末年始(12/29～1/3)
 交通アクセス 阪急伊丹駅(仮設)あるいはJR伊丹駅から歩いて約7分

ラストホール



ラストホール (伊丹市立生涯学習センター)

愛称のラストホールは光り輝く人生という造語で公募作品の中から選ばれた。広い1階ホールでは市民作品展が開催されたり、約6万冊の蔵書を持つ図書館南分館がある。2階には300名収容の多目的ホールがあり、さまざまな芸術文化鑑賞事業が、マイコン室、講座室、学習室、和室、創作室、調理室、育児室などでは多彩な自主講座が開かれている。3階では高齢者のデイサービス(入浴、給食、日常体力訓練など)センターがあり、4階には温水プールやアスレチックマシンが完備している(有料)。

交通アクセス

- 阪急伊丹駅より伊丹市バス 系統07阪急塚口行「稲野8丁目」下車徒歩1分
- 阪急神戸線塚口駅北側出口より伊丹市バス 系統07阪急伊丹行、系統04第三師団前行 いずれも「生涯学習センター前」下車すぐ
- 阪急伊丹線稲野駅より西へ徒歩600m

開館時間 文化学習施設 月～土 9:00～21:00 日・祝 9:00～17:00
 図書館南分館は水～土は9:30～19:00 日・月・祝日17:00
 フィットネス 月～土 10:00～21:30 日・祝 10:00～17:00
 デイサービスセンター 月～土 9:00～17:30
 ただし月曜と祝日は休館

所在地 伊丹市南野字矢倉塚 720-2
 電話/FAX TEL 0727-81-8877 / FAX 0727-81-9292
 休館日 毎週火曜日と年末年始(12/29～1/3) (火曜が祝日のときは翌日)